

金沢市幼児教育センター開設準備検討会の開催について

1. 設置目的

幼稚園及び保育所等と小学校の連携強化や、幼稚園教諭及び保育士の研修の充実を図るため、拠点となる幼児教育センター（仮称）の2020年度開設を目指し、センターの機能や体制について検討する。（第1回 令和元年5月13日開催）

2. 背景

（1）民間園を中心とした幼児教育の取り組み

戦前から民間篤志家によって設立、運営されている善隣館のほか、高度経済成長期の保育所の増設も民間施設を中心に行われ、現在も市内の幼児教育・保育施設のほとんどが、民間園であり、それぞれの園が独自に特色ある幼児教育に取り組んでいる。

（2）高等教育機関による人材育成と支援

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の養成課程を有する高等教育機関が市内及び近隣に多く存在し、人材育成・輩出のほか、幼児教育向上のための支援を実施。

（3）東京大学との協定締結

東京大学大学院教育学研究科と金沢市との間で、幼児教育の推進・研究等に関する連携協定を締結。

（4）国・県の取り組み

国では、幼児教育アドバイザーの配置や幼児教育センターの設置を推進。
石川県では、幼児教育センターを設置し、幼児教育アドバイザーを育成。

3. 幼児教育センター開設のイメージ

本市の幼児教育に求められる役割

○ 幼児教育の果たす役割

幼児期に培った忍耐力や自信、社会性などの「非認知能力」は、その後の小学校における学習意欲にもつながるともいわれている。

○ 本市における幼児教育の更なる発展

保育士、幼稚園教諭を支援して、その指導レベルとモチベーションを高めるとともに、幼児教育の独自性や先進性をさらに発展させることが必要である。

○ 幼保小連携の必要性

幼児教育から小学校教育へ子どもたちが円滑に移行できるよう、幼児教育・保育施設と小学校が連携・接続を強めることが求められている。

○ 教育プラザにおける幼児教育関連の取り組みの推進

平成15年、教育と福祉が連携し、子どもの健全育成を支援する拠点施設として開設し、金沢の子どもたちの健やかな育ちを一貫してサポートしている。



